



## 努力をかさねること

校長 古屋 澄人

今年の夏は、天気が急変するなど、不安定な天気が多かったと感じます。東京では40年ぶりに2週間以上連続の雨を観測するなど、横浜でも8月中旬は、梅雨に逆戻りしたような天候となりました。子どもたちにとっては、「夏が早く終わってしまった」という感想をもったのではないのでしょうか。

さて、7・8月は国際的なスポーツ大会がたくさん行われました。世界陸上ロンドン大会では、男子200mにてサニブラウン選手が世界最年少のファイナリストになり、男子4×100mリレーでは日本チームが銅メダルに輝くなど、手に汗を握りながらの応援が続いたことと思います。マラソンに出場した市民ランナーの代表である川内選手が途中何度かアクシデントに見舞われながらも必死にゴールを目指して走る姿には、感銘を受けました。中でもやはり驚いたのは、ボルト選手にとってラストランとなった4×100mリレーで途中棄権してしまったことでした。選手の皆さんは、当然ながら当日最高のパフォーマンスを示すために、目標を掲げ何年間も努力をかさね、それを継続させてきたと思います。同時に、当日に合わせて最高のコンディションをつくりあげることの難しさを感じました。ボルト選手は「努力をかさねれば何事も可能と証明してきた。それが若い世代へのメッセージだ」（朝日新聞より）という言葉を残して引退しました。改めて、目標に向けて努力しそれを継続させることの大切さを感じました。

7月は世界水泳がブタペストで行われました。時を同じくして青葉区水泳記録会が7月31日に奈良の丘小学校で行われました。水泳大会でなくて水泳記録会であることは、着順が大切なのではなく今まで練習に取り組んできた自分やチームの記録に挑むということに価値を置いています。

本校からは、43名の4から6年生の子どもたちが参加しました。子どもたちは、練習の時から自己記録の更新を目指してたくさん泳ぎ続けました。当日は、みんなの応援に後押しされて多くの子どもたちが自己記録を更新していききました。参加した子どもたちは大きな緊張感の中で競技に取り組んだことと思います。6月から行ってきた水泳学習や特別水泳教室で努力をかさね、力の限り自分の記録に挑戦した子どもたちは、やり遂げた充実感に満ち溢れ、いい表情をしていました。最後に行われた200mリレーでも、チーム恩田が一丸となって代表選手に声援を送る姿を見ることができました。



9月に入ると、いよいよ運動会に向けた活動が本格的に始まります。子どもたちは、それぞれの学年のめあてに向けて競技や演技に取り組みます。活動を通して、仲間とのつながりや自分の役割を理解し責任をもって果たすこと、仲間と協働して活動を進める姿を目指していきます。残暑が厳しい9月になるかと思えます。適度に休憩をいれながら水分補給を欠かさずに教育活動に取り組んでいきたいと思えます。各ご家庭におかれましては、引き続きご協力をお願いいたします。

### ヒアリに注意を

7月14日に横浜港にてヒアリが発見されたと報道がありました。子どもたちには、夏休みに入る前にヒアリについての注意事項について説明をしました。詳細については、横浜市ホームページ「ヒアリ」「カガミアリ」に関するお知らせ に掲載されています。ご確認ください。